

## エッセイ

## 傘寿の手習い沖繩空手

西川 章

## 1. きっかけ

今年(2019)の4月より、沖繩空手の稽古を始めた。30年来の友人が、ライフワークとして空手の先生を長年しており、2、3年ほど前から「トライしたらいいかですか?」と言われていたが、まったくの未経験者であること及び空手・武道なるものにはいささか違和感があり、躊躇していた。

昨年(2018)11月15日に、妻が急性心筋梗塞・心不全で本当に突然他界してしまった。何か心にぼっかりと穴があいた感じで、急に愚痴でもなんでも言える相手が突然消えてしまつて、どうしようもない寂しさを強く感じるようになった。

従い動機・きっかけは「空手が好きで、上手になつてやろう、空手を通じて人格的・人間的に成長しよう」というような高尚なことではなく、

「単に寂しさを紛らわせたい」

というようなことであつたようにも思える。

## 2. 沖繩空手の歴史概要等

## ① 歴史概要

空手道(カラテドウ)は、琉球王国時代の沖繩で発祥した拳足による打撃技を特徴とする武道・格闘技である。

15世紀初めに中国の明時代に始まつた進貢・冊封関係が19世紀後半の幕末まで約500年間続いた。諸説あるようであるが、中国の拳法が沖繩に伝わつた最も古い年代が15世紀初め頃で、この拳法をベースに沖繩土族独自の護身術・武道等が加味されて、沖繩空手が形成されていつたようだ。また1609年(慶長14年)薩摩・島津の侵攻、征服による薩摩示現流の影響もあるとの説もある。現在の沖繩空手の系譜・人脈が明確に指摘されるようになるのは比較的新しく、幕末から明治維新初期である。即ち明治の中期まで在命した琉球国王の武術師範であつた松村宗棍(1809~1899)からである。なお宗棍の残した巻物は現代空手道の規範となつている。

宗棍の門下の糸洲安恒(1831~1915)は、空手道中興の祖と仰がれ、それまで唐手術という護身術であつた手を体育的に改良し昇華させ、闘争主体の手を人格形成に主眼を置いた現在の沖繩空手として実質的に確立したといわれている。なお、日本本土に沖繩空手を紹介したのは、船越(富名越)義珍(1868~1957)で小説にもなつている。

## ② 呼び方、表記

当初(古くは16世紀)は、手(タイ)と呼ばれていた。19世紀になると唐手(トウテイ)と呼ばれ、20世紀初めに読み方がトウテイから唐手(カラテ)に改められた。

現在の「空手」が使われるようになるのは比較的新しく昭和になつてからである。即ち1929年(昭和4)慶応大唐手研究会が般若心経の「空」から唐手を空手に改めると発表したのをきっかけに空手表記が急速に広まつていった。

## ③ 空手の流派と競技形式

空手に流派が登場するのは、空手が本土に伝えられた大正末期以降で、それ以前は空手の盛んだった

地域名から那覇手、首里手及び泊手の三つに大まかに分類されていた。

講道館に統一されている柔道とは異なり、現在では上記の三つ流派(手)をベースに多数の流派があり且つ流派により教える型や鍛錬法・試合ルールが異なる。大別すると競技空手と沖繩空手(伝統空手)に二分される。

## ④ 競技空手

競技空手は、日本本土の大学の空手部・空手研究会を中心に広まり、続いて米国・EUに広まつていつた空手の試合を重視する流派である。

## ⑤ 沖繩空手

沖繩に本部を置く空手流派である。競技化・スポーツ化傾向にある本土の競技空手と距離を置く意味で、沖繩空手が伝統武道空手として用いられる場合も多い。

沖繩空手の特徴としては、伝統的な型稽古や鍛錬法及び礼節・人間形成を重視している。種々の流派があるが、三大流派として小林流、剛柔流及び上池流がある。

## ⑥ ワールド王修会及び知念先生

私が習つている空手は「ワールド

ド王修会」という団体名で、私はその日本支部のメンバーの一人であるので、これらにつき簡単に紹介したい。

### ⑦ ワールド王修会

知念先生が1979年(昭和54年)フランスで創設した。沖縄空手流派としては、首里手で小林流に属する。

フランス・ポージランドを中心に、全世界約30ヶ国で、6000人以上の門下生を有する。

本部は沖縄・那覇市に置き、日本本土は日本支部(東京、埼玉、川崎)を中心に活動している。2年毎に300人強の会員が世界各国から集まるワールド王修会世界大会(World Oshukai World Cup)をフランス、ポージランド及び沖縄等で開催している国際色豊かなといえる団体である。

### ⑧ 知念 賢祐先生

1944年、沖縄・伊江島生まれ。ワールド王修会・沖縄古武道・沖縄小林流空手道会長。

1976年、「プロの指導者として、沖縄の文化遺産である沖縄空手・古武道を広めることを職業にしたい」という固い決意を胸に弱冠32才で単身フランス・パリ

に渡った。当時、沖縄空手家の海外雄飛といえばアメリカ行きが大半だったが、あえて誰も行かない西ヨーロッパに挑戦した。

一方空手はその当時、フランスはヨーロッパでも日本の競技空手の最盛期で沖縄伝統空手は皆無であった。以降、様々な苦勞・挑戦をし、40余年後の現在、世界約30ヶ国、200超えの道場、6000人以上の門下生を抱える空手組織の長として指導の第一線に立ち続けている。日本本土ではあまり知られていないが、フランスでは3人に1人は知っているとのことである。

## 3. むすび

### ① 練習概要

現在、沖縄空手の一流派である「ワールド王修会東京支部」の川崎道場で一回/週(原則として土曜日の午前中)レッスンを受けている。

シニアクラスで、初心者は一対一人。基本的に一対一の個人指導である。

突き・受け等の基礎練習から、「普及型1」・「ナイファンチ初段」・「平安初段」等の「型」及び組手

練習等を適宜織り交ぜて練習・指導を受けている。「型」の練習は先生の真似をしながら行っているが、簡単に見えても実際にしてみると奥が深く、何回繰り返しても半分もできない状態でちよつと恥ずかしく、先生に申し訳ない感もあるが、「継続は力なり・あわてず、あせらず、あきらめず」と割り切つて続けようと思っている。

### ② レッソンの楽しみ及び効用

シニア空手もシニア世代の健康維持法としては、散歩、スポーツクラブ等でのヨガ・太極拳等と共通性があると思うが、基本的な相違は「向上心及び上達に対する楽しみ・喜び」が散歩・ヨガ等よりも何倍も多いことだと思う。初心者ゴルフのように、遅々ではあるが、進歩・上達していくことの喜び・楽しみが身体及び脳の活性化をもたらし、より楽しい生き甲斐の一つとなつていくように思える。

### ③ 川崎道場の紹介

沖縄空手に興味のある方は、下記に連絡してください。

hitec\_pipe\_meidai@yahoo.co.jp  
道場長名：平山 徹夫

「王修会 沖縄空手」空手で検

索すれば、ワールド王修会東京支部の詳細を見ることが出来ます。

### 参考とした書籍等

1) ワールド王修会 東京支部 ホームページ Wikipedia 空手道

2) 空手道型大鑑(空手史の考察)：坂上隆祥著、日本空手道糸洲会総本部

3) 空手道歴史年表：外間哲弘 編著、沖縄図書センター

4) ワールド王修会 世界大会パンフレット

5) 義珍の拳：今野 敏著、集英社

以上

### 〔筆者紹介〕

平成28年入会。三重県生まれで、現在横浜市神奈川区在住。歴史が何となく好きで入会しました。横歴の月例発表会のレベルの高さに感心すると共に、毎回を楽しみにしております。